筑波大学附属駒場中・高等学校

第51回教育研究会のご案内

１．期日・場所

○ 2024年11月23日（土）

○ 筑波大学附属駒場中・高等学校　　〒154-0001　東京都世田谷区池尻4-7-1

HP: https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp　　e-mail: kyoikukenkyukai@tsukukoma-gafe.org

２．研究主題

「余白をのこす―生徒･教師相互の自由な学びのために」

３．日程

8:30～9:30	9:30～10:20		10:40～11:30		12:40～14:40		15:00～16:30
受付	第１校時		第２校時		研究協議会		シンポジウム

〈１〉公開授業（9:30～11:30）

第１校時（9:30～10:20）

教科	題目と要旨	学年	授業者
社　会	**室町文化の成り立ち** 室町文化は、現在の日本の伝統文化とみなされるものの多くが生み出された「今につながる文化」として評価される。こうした位置づけを同時代的な評価をふまえながらとらえなおし、中世社会の諸事象の関連性について文化を軸に検討する。	中学２年	小佐野 浅子
理　科	**IoT/スマートデバイス開発～自分が作りたいものを作る～** 高2で実施している探究(1単位)において、上記テーマで生徒たちの活動を紹介。生徒1人ひとりが「作りたいものを作る」に向けた現状を発表するゼミ形式。【探究、こんなふうでもいいんじゃない!?】【STEAM的!?】多様な探究の在り方を探りたい。	高校２年	今和泉 卓也
英　語	**写真や絵を説明しよう** 写真や絵を英語で説明するスキルは、様々な場面で必要である。本授業では中1後半で習得する現在進行形や過去形を用いながら、自己表現や友達とやり取りする様子を発表したい。	中学１年	秋元 佐恵

第２校時（10:40～11:30）

教科	題目と要旨	学年	授業者
社　会	**行政法分野に関する法教育** 具体的な事例を通して、社会の課題に対して行政機関は何ができるか、何をすべきかを意見を交わしながら考え、法に基づく社会的課題の解決方法について思考を深めることを目指す。法教育における行政法分野学習の有意性を示す一試案としたい。	高校２年	安藤 嵩輝
理　科	**人間活動と生態系を探究する** 中学理科における生態学分野では、自然環境を保全することの重要性を認識させたい。社会科と連携して教科横断的な取り組みも行いながら、人間活動が生態系に与えている様々な影響や問題についてグループで探究した成果を発表し、議論することを通して理解を深める。	中学３年	宇田川 麻由
英　語	**「英語コミュニケーションⅠ」における技能統合型の言語活動** 現行学習指導要領に繰り返し見られる「複数の領域を結び付けた統合的な言語活動」について、「英語コミュニケーションⅠ」の中では具体的にどのような活動が実践可能なのか、本時の授業を通して考えたい。	高校１年	松尾 真太郎

〈2〉研究協議会（12:40～14:40）

教科	主題・内容	担当者
社会	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ ワークショップ「新科目の実践について」** 2022年度から始まった高校地歴･公民の新科目を各校でどのように実践しているか、参加者間での情報交換をワークショップ形式で行う。唐木先生にもコメントをいただきながら、より良い実践のため協議したい。	授業者　小佐野 浅子 安藤 嵩輝 助言者 唐木 清志 （筑波大学人間系教授）
理科	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ「科学的な探究活動の愉しみ方」** DXハイスクールが始まり、教育におけるデジタル活用が注目されている。デジタルを活用した人材育成とは何を意味するのかを、できるだけ分かりやすく説明する。	授業者　今和泉 卓也 宇田川 麻由 助言者 青木 悠樹 （群馬大学数理データ科学教育研究センター長教授）
英語	**Ⅰ「公開授業をめぐって」** **Ⅱ「生徒が主体的に発信し、相互理解を深める能力の育成」** 公開授業に関する検討に加え、生徒が自ら英語で発信し理解し合う能力を高めていくために、英語科各学年の日々の授業で取り組んでいることを報告し、より効果的な方策を協議したい。	Ⅰ授業者　秋元 佐恵 松尾 真太郎 Ⅱ発表者　山田 忠弘 助言者 名畑目 真吾 （筑波大学人間系助教）

〈3〉シンポジウム（15:00～16:30）

「筑駒の研究 ―才能が伸びる環境と風土―」

概　要

本校はこれまで「自由・闊達の校風のもと、挑戦し、創造し、貢献する生き方をめざす」という学校目標のもと、社会に貢献するトップリーダーを育成すべく実践を積み重ね、その成果を発信してきた。2002年度からはSSHに４期20年間にわたって指定され、先進的実践や教育情報化に取り組むほか、海外校との研究交流や複数な分野の国際オリンピックに多数の生徒を輩出したりしてきた。また04年度には、「『中等教育段階のリーダー形成』に関する実践的研究」プロジェクトにおいて、「トップリーダー」を「自己の能力（知力や技能だけでなく、体力・感性・倫理観を含む）を、社会のために発揮し貢献する自覚と責任を持ち、持続的に行動ができる者」と定義した上で、その育成のために学校カリキュラムや学校システムがどうあるべきかを、多様な側面から明らかにし、その知見に基づき教育実践を積み重ねてきた。

しかしながら、その研究からすでに20年が経とうとしており、スマートフォンの登場や、近年の新型コロナウイルス蔓延に伴うオンラインでのコミュニケーションツールの普及も相まって、当時に比べ社会や生徒を取り巻く環境が大きく変化したことは否めない。こうした変化は、生徒たちはもちろん、教員集団の資質にも少なからず影響を与えているように見受けられ、現状を踏まえた新たな研究がまたれていた。特に、高い割合で在籍している、数理・科学・言語などの様々な領域に高い能力がみられる生徒、特定の事柄への強い関心や、創造性や集中力などが見られる生徒、さらには彼らをとりまく環境や風土に着目した研究は行ってこなかった。

そうしたなか、23-24年度文部科学省「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」に筑波大学が採択され、本校は実証研究協力校として、本校の実態を専門的見地から言語化して理論的に検証するとともに、「学びの場」の充実を図ってきた。

昨年度の教育研究会の講演会では、文科省の有識者会議で委員（21-22年）を務められた松村暢隆氏（関西大学名誉教授）をお招きし、才能教育の理念と方法を整理しながら、筑駒の「困っている才能のある生徒」への教室内外での指導・支援のあり方を紹介し、どの学校の困っている才能のある子どもたちも救われるような、学校環境の整備条件について論じた。

今年度は、こうした知見も踏まえながら、生徒・教員を対象にアンケート・インタビュー調査（Ａ～Ｃ、下記参照）を行った。また、その分析を通して、生徒の特性と環境との関係、学校図書館をはじめとする空間の位置づけ、日々の授業や教員のあり方など、本校が独自に育んできた環境と風土が明らかになってきた。本シンポジウムは、これらの調査の経過や成果を共有することで、今後の支援のあり方を考える場としたい。

調査Ａ「特定分野に特異な才能をもつ生徒の学校適応に対して効果的な、学習環境や対人環境の構築の仕方の模索：個人の特性との交互作用を考慮して」

調査Ｂ「特定分野に特異な才能をもつ生徒における「学校図書館」の位置づけに関する研究:校内施設に対する生徒の好ましさの観点での実態調査」

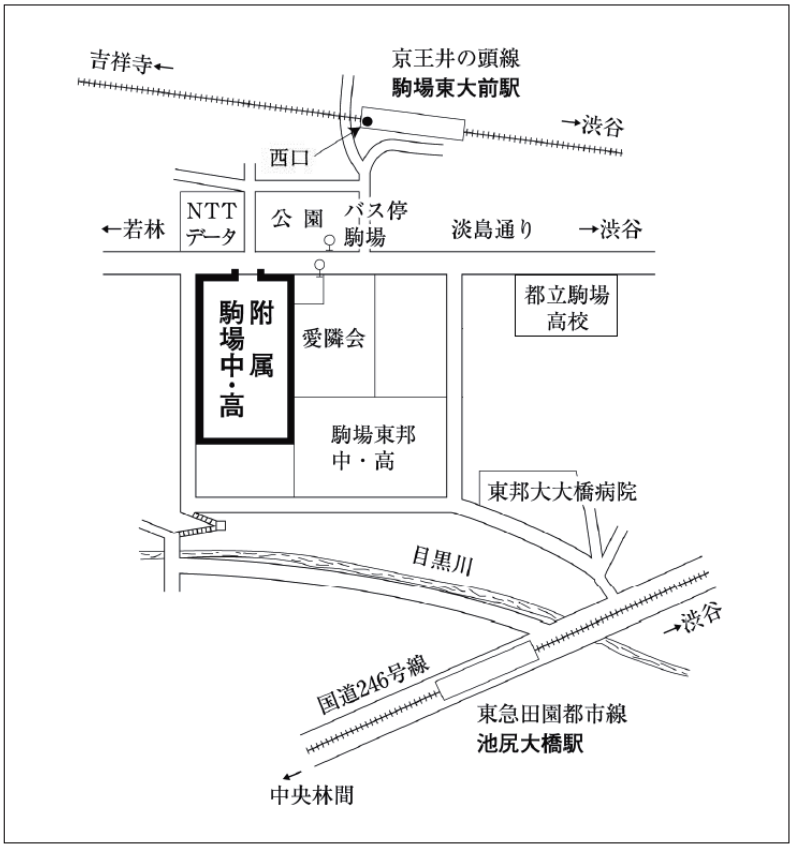
調査Ｃ「特定分野に特異な才能をもつ生徒の教育的ニーズを充足する教育活動の特質と指導のあり方に関する研究:学習体験に関する回顧調査」

４．問い合わせ・申し込み

○参加資格　　参加は教育関係者に限らせていただきます。
○定員　　社会科40名／理科50名／英語科100名／シンポジウム140名（先着順）
○資料代　　無料
○参加申込　　申込フォーム（下記）からお申し込み下さい。折り返し、受付完了メールが届きます。参加の可否につきましては、後日改めてメールをお送りいたします。受付完了メールが届かない場合は、下記のメールアドレスまでお問い合わせ下さい。
○問い合わせ先　本校研究部教育研究会係　e-mailアドレス：kyoikukenkyukai@tsukukoma-gafe.org
※電話でのお問い合わせはご遠慮下さい。
○交通機関　　下記の地図をご参照下さい。自動車での来校はご遠慮下さい。
○昼食･飲み物　各自でご用意いただくか、近隣の飲食店をご利用下さい。
○宿泊施設　　宿泊施設は、渋谷周辺の宿泊施設が便利です。各自でお申込み下さい。

―― 参加申込先 ――
申込フォーム　https://forms.gle/CacDcunDmMrVCeCq9
申込期間　2024年10月23日(水)～11月13日(水) 予定
定員に達し次第、申し込み受付は終了いたします。

筑波大学附属駒場中・高等学校案内図



○利用交通機関
京王井の頭線「駒場東大前」駅西口下車徒歩7分
東急田園都市線「池尻大橋」駅北口下車徒歩15分
（渋51）東急バス　（渋谷－若林折返所）
（渋54）小田急バス（渋谷－経堂）　　いずれも「駒場」下車徒歩1分